

中国語母語話者における受身文の習得—KY コーパスの考察を中心に—

王雯儀

高苑科技大学応用外国語学科 専任講師

要旨

本研究では、KY コーパスを分析し、中国語を母語とする日本語学習者の自然に近い発話の中での受身文の使用を見てきた。まず、受け身の使用は中級中から観察された。使用数は英語と韓国語母語話者より少ないものの、中級上から超級になると、母語による大きな違いはなかった。次に、動詞の使用傾向では、「和語動詞」より「漢語＋される」が多く使われ、「和語動詞」のうち、「言われる」が最も使われている。主語の使用について、他者に主語を置く受身文の使用数が少なく、レベルが上がってもあまり増えない。迷惑の有無について、中級中での初回使用は迷惑の受け身であるが、レベルの上昇につれ、中立的な受身文が多く使われるようになった。また、“被”構文で表せない受身文は、中級までは使用が少ないが、上級以上では使われていた。

今回の考察を通して、中国語母語話者の受身文は“被”構文で表せるかどうかに関わらず、レベルの上昇と共に母語からの影響が薄くなるが、他人に視点を置く受身文の使用数が著しく増えないということがわかった。つまり、視点の置き方は中国語母語話者にとってはレベルが上がっても習得されにくいことが明らかになった。

キーワード：日本語学習者、中国語母語話者、受け身、KY コーパス

中文母語話者的被動態之習得-以 KY 語料庫的考察為中心-

王雯儀

高苑科技大學應用外語系 講師

摘要

本論文乃藉由分析 KY 語料庫觀察以中文為母語的日語學習者在接近自然的使用狀況如何使用被動態。首先，中文母語話者被觀察到開始使用被動態是在中級中的程度，剛開始使用數量雖不及英文及韓文母語話者，但到了中級上至高級程度則已看不出三者差異。其次在動詞的使用上，相較於「和語動詞」有使用更多「漢語+される」動詞的傾向，而使用的「和語動詞」中以「言われる」出現次數最多。在主詞的使用上，中文母語話者很少使用主詞為他人的被動句，程度提升後也不見增加。在是否有被害感方面，中級中程度初次使用雖然是有被害感的句子，隨著程度上升則是使用更多表示中立的被動句。此外，無法以中文的「被」來表達的被動句在中級之前使用數很少，但上級以上就增加了。

經由這次的考察得知，無論是否能以中文的「被」來表達，中文母語話者在自然會話中使用的被動句會隨著程度上升脫離母語影響。此外也得知了既使程度提升，視點為他人的被動句在使用量上並無明顯增加。換言之，無法以母語表達的句法會隨著程度提升習得，然而視點的使用方法對中文母語話者而言既使程度提升依舊不易習得。

關鍵字：日語學習者，中文母語話者，被動句，KY 語料庫